



## どうやって始まったの？

2017年9月-2月に鹿児島県主催の「第4回地域づくりプロデューサー養成講座」全12回が始良市にて開催されました。地域のことを何かやりたい、何かやりたい人を応援したい、人と繋がりたい、一歩踏み出したいけど何をどうして良いか方法がわからない…そんなさまざまな思いを抱え、さらに職種も多様なメンバーが集まりました。講座の中で自分に向き合い、地方の現状や町の課題を目の当たりにし、インプットとアウトプットを繰り返し、約半年をともに過ごしたメンバー。

「この繋がりを無駄にしたいくない…  
これからも続けよう対話を。」

と、当時のメンバー主体で立ち上がった任意団体です。それぞれに生活もある、仕事もある、子育てもある中で、焦らずゆるい集まりを基本に据え、対話の場づくりを続けています。同じ志の仲間が少しずつ増え、さらなる広がりをみせています。



人を元気に、  
街を元気に

発足/2018年3月8日  
人数/29名

## 目指す姿は



あいらをこんな街にしたい。ゆるやかに。  
多世代が強みを持ちよって。

## つながりのひろがり

何か行動したい人、だれかを応援したい人  
いっしょに始良を、鹿児島を元気にしよう  
と考える方へ!!

まずはメンバーに声をおかけください

ために月1回のあいら未来会議に、  
参加してみてください。  
そしてお互いにこの場が必要だなと感じれば、  
正式にご加入いただければと思います。

Facebookのグループで開催日をお知らせしています。

… 事務局 …

鹿児島県始良市平松5778 KidsCafe&BarLINK 内  
tel.090-2921-4181(種子田)/ 080-3125-8899(森)  
Facebookプライベートグループ/あいら未来会議

# あいら 未来 会議

始良のまちを、ひとを、  
元気にしたい。  
困りごとの解決を  
応援するグループ



# どんなこと してるの？

2018.3.8から

## あいら未来会議

対話の集いを定例会として月1回第4木曜日(19:00~21:00)に開催しています。

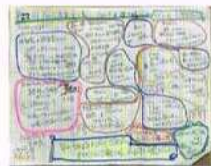
### - 基本姿勢 -

- ①できる人ができる時にできる事を。
- ②やわらか発言。
- ③前向き参加でゆるやかに。

まずチェックインで「呼ばれたい名前・今日の気分・最近の良かった事など」を各自1分程度紹介。各自の1か月の楽しかったこと、悲しかったこと、感動したこと、嬉しかったことなどの振り返り、自分と向き合う大切な時間。次に、テーマを出したい人がいるか募り、その日に話し合うことを集約。他、イベントの報告や今後の課題解決に向け意見交換や情報の共有。終了10分前にチェックアウトをして「今回の感想・決意・依頼など」で括ります。



▲話し合い風景



▲グラフィックレコードで記録

**自主研修会①** 対話の要、ファシリテーションを学ぶ 2018.8.22

まちづくり界で有名なTen-Labの永山由高氏より  
「人々の考えを引き出してまとめて  
落とし所を見出して形にするスキル」

**自主研修会②** 始良で活躍中のリーダーから学ぶ 2019.3.28

カモコレの留野真一氏  
「着地型観光はニーズでなくウォンツ。地球環境を考える。」

2018.6.10から

## FUKUFUKU プロジェクト

すぐにサイズアウトしたり好みでないものをもらったり、不要服の処分や多めに必要な着替えはママたちの悩み。1枚の持ち込みで10円クーポン発行。安くで購入でき、経済的にも大助かりと好評頂いています。今ではマルシェとなり、足ツボマッサージやコーヒー販売などゆっくりくつろげる場としても足を運んでいただいています。



子ども服をかしこく整理・お得に買える「FUKUFUKU」のフリーマーケット

子どもが着られなくなった服が多岐に必要なお子さんの着替えはママたちの悩み。その悩みにママたちが集まり開催するフリーマーケット「FUKUFUKU(服福)プロジェクト」。



▲市報で紹介された記事



▲開催時の様子



3月31日(日)開催!  
親子で楽しめる子ども服フリーマーケット  
FUKUFUKU(服福)マルシェ  
時間 午前10時~午後3時  
会場 グループホームなぎさのまち交流センター(船元148-1)  
(前日11:00~15:00で靴の提供を受け、当日可)  
内容 手作りアート、ロケーションフォト撮影、心理学体験、スクラップブック、軽食(スープジャー・焼き菓子・おにぎりなど)

FUKUFUKU(服福)プロジェクト  
TEL 990-9599-4108 LINE ID: @brg8148t  
LINEでメールのやり取りもできます。お気軽にお問い合わせ下さい。



▲南日本新聞で紹介された記事



2019.12から

## あさごはん食堂と みんなの居場所shigetomi

「多様性を認め、地域の支え合いが見える場」子供も大人ももっと身近に頼れる人がいること、頼れる場所があることを知って欲しい。そしてそんな場を開く人が増えて欲しい。そんな願いをこめています。



▲餅つきの様子



▲鹿児島銀行さんよりいただいたのぼりと子どもたち



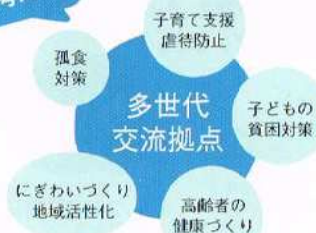
▲鹿児島子ども食堂ネットワークさんより応援金をいただいた新聞記事

### 3つの特長

- 1 朝ごはんは希少な取り組み
- 2 そのまま場を開放し不登校や生きづらさを抱えた人への居場所・相談窓口となる
- 3 必要な支援へ繋がられる場に



### 考え方



スタートが  
子ども食堂